

## 文学部 教育の方針

### 教育の基本的目標

文学部は、「人間とは何か」という根源的な問いに人文学の様々な分野から総合的にアプローチする能力を身につける教育を目指します。社会における人間のありかたを見据え課題を発見するとともに、課題解決のために豊かな知的遺産や多様な文化に学び、今を生きる私たちの社会に活かすことに取り組みます。また、学部内はもちろん学部や大学の枠を超えた、多様な人々との議論や対話を通じた連携を積極的に推し進め、豊かな教養と人間性を持ち広く活躍できる人の育成を目的とした教育を行います。

### 養成する人材像

文学部では、豊かな教養と人間性を備え、人文学の専門的な知識と技術を通じて様々な人々と協働するなかで様々な課題を発見し、その解決のための知を探究していく人を養成します。

#### 様々な課題に挑む人文学の知の探究者

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 人間をめぐる多様な課題の解決を目指し創造的に活動できる実践力
- 人間をめぐる多様な課題を発見し多面的に追求する探究力
- 他者と議論し協働するコミュニケーション力
- 人文学の様々な分野に関わる専門力
- 幅広い視野を獲得する教養力

## 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

文学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

### 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

#### 【実践力】人間をめぐる多様な課題の解決を目指し、創造的に活動できる実践力

人間と世界についての多様な理解をもとに、課題の解決を目指し、新たな時代を創るために行うことができる。

#### 【探究力】人間をめぐる多様な課題を発見し多面的に追求する探究力

人間の関わる様々な領域、とりわけ社会・思想・文化・歴史・心・地域・言葉に対する論理的思考力を働かせ、現代の課題を見出し探求することができる。

#### 【コミュニケーション力】他者と議論し協働するコミュニケーション力

必要な情報を収集し、適切な方法で客観的に分析・考察し、その過程と結果を他者と共有し議論することを通して協働することができる。

#### 【専門力】人文学の様々な分野に関わる専門力

人文学の多様な専門分野における学識と技能、すなわち文献の読解、資料の分析、あるいは実験・調査を行う能力を修得し、それらを活用することができる。

#### 【教養力】幅広い視野を獲得する教養力

人文学的見地に基づいた課題の発見と解決の方法について学ぶことで、豊かな感性、先入観に惑わされない公正な思考、自分を客観的に把握する能力を身につけ、生涯にわたる幅広い視野を獲得することができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、文学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

### 教育の実施方針

現代の社会における課題解決に向けて、学生が人文学の視点から主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

### 教育内容の考え方

人文学の深い学びの視点から、学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

#### 【共通教育】

全ての学生に共通して求められる多面的な教養と汎用的な技能の育成を目指し、多様な学生と交流し共に学ぶ教育を提供します。

自分自身とは異なる考えを持つ人とも対話や協働を可能にするために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

#### 【専門教育】

人文学の専門領域の内容を体系的に学ぶことによる深い学識と、様々な専門領域を多面的に学ぶことによる広く学際的な知識を修得する機会を提供します。

自身の専門領域の基礎的かつ体系的な知識と技能を深く学び、同時に専門外の様々な領域についても広く学ぶことにより、他者との協働の中で人文学を総合的に理解するカリキュラムを提供します。

人間に深く関わる思想・芸術・社会・文化・地域・心理・歴史・言語・文学を総合的に探究するため、「哲学・芸術学」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語文化学」の5つの教育分野を設置しています。

#### 【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要となる多面的な言語能力を伸ばし、多言語教育の機会を提供します。

すべての学びの基礎となる日本語能力（聞く・読む・話す・書く力）を1年次の「人文学の基礎」から継続的に育成するとともに、そのもとで英語を始めとする諸外国語を、その文化的・歴史的背景とともに多面的に学ぶ機会を提供します。実践演習では外国語や古文・漢文の文献読解の技法を学び、共通科目では英語・ドイツ語・フランス語・ギリシア語・ラテン語・ロシア語・オランダ語・韓国語・中国語など多様な外国語を学ぶ機会を提供します。留学生には日本文化の理解に基づいた総合的で高度な日本語能力を学ぶ機会を提供します。

## 教育方法の考え方

1年次では、「人文学の論点」「人文学入門演習」で大学での学習・研究の基礎となる知識や方法について学びます。また、2年次以降は、各分野の学問の基本体系を学ぶ「人文学概説」、各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」、各分野の研究の技法を実践的に学ぶ「実践演習」、卒業論文の作成のための実地指導である「課題演習」を開設しています。演習科目においては少人数教育を重視し、ディスカッション等を通じて、生きた知識を身につけることを目指します。

文学部では、プログラム制を導入し主専攻プログラム・総合人文学プログラム・アドバンスプログラム（心理職養成プログラム、学芸員養成プログラム、外国語習得・留学プログラム、研究力養成プログラム）を開設しています。

入学後1年次生は、指導教員やアカデミック・アドバイザーの支援を受けながら、どのような授業科目を履修し、どのような知識や能力を身につけて卒業するかという4年間の学修計画を主体的に立案します。その後も指導教員やアカデミック・アドバイザーの継続的な支援のもと、学修計画を修正しつつ卒業論文作成に向けて学修を進めていくことになります。4年次での卒業論文作成をもって、文学部で培ってきた実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力を総合し、4年間の学びの集大成とします。

## 学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法（授業参加・発表・レポート・試験など）をシラバスなどで予め明示し、それに基づいて学修成果を厳格に評価します。

卒業論文については、審査基準・方法を明示した上で、主査・副査2名以上による査読及び口述試験を行い、それに基づいて厳格に評価します。

## 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて広く知を求め他者と交流する正課外の機会を提供します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学部は、以下に掲げた力を身につけた人を求めます。

### 求める人材像

岡山大学のアドミッション・ポリシーのもと、文学部では、課題に取り組む実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想をわかりやすく的確に表現できる力、学びそのものに興味を持ち工夫できる力や、高校卒業程度の基礎的な知識と語学力を身につけている人を広く求めます。

入学後の学修のため、特に以下の教科の内容を修得していることが望まれます。

【国語、外国語、地理歴史、公民】

### 求める力

【実践力】

自らの課題と取り組むことができる

【探究力】

課題に対する自らの考えを導き出すことができる

【コミュニケーション力】

自らの疑問や興味、考えをわかりやすく的確に表現できる

【専門力】

高校卒業程度の基礎的な知識・語学力を備えている

【教養力】

学びそのものに興味を持ち、工夫することができる

## 文学部の選抜方針

文学部では多様な志願者を評価できるように、複数の試験及び日程の入試を実施します。具体的には、一般選抜（前期日程）、総合型選抜（大学入学共通テストを課すもの）、私費外国人留学生選抜、国際バカロレア選抜を行います。

## 文学部の選抜方法

学力検査、面接、書類審査などによる試験のいずれかを、あるいは組み合わせて行い、本学での学修に足る学力または適性を測ります。

## 選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

### ・一般選抜(前期日程)

6～7教科の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語及び外国語（英語）の2教科を課し、人文学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。

### ・総合型選抜(大学入学共通テストを課すもの)

大学入学共通テストにより、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。面接（口述試験を含む）および自己推薦書により、人文学を学ぶ上で重要な思考力・判断力・表現力を評価します。また、面接（口述試験を含む）を課し、多面的な質問を行い、学習意欲や人文学科への適性を評価します。これらを総合して最終的な評価をします。

### ・私費外国人留学生選抜

日本留学試験を課し、基礎的な日本語能力を評価します。日本語作文を課し、人文学を学ぶ上で重要な論理的思考力、読解能力、表現能力を評価します。また面接を課し、多面的な質問を行い、学習意欲や人文学科への適性を評価します。これらを総合して最終的な評価をします。

### ・国際バカロレア選抜

成績評価証明書、自己推薦書及び評価書により、人文学を学ぶ上で重要な基礎学力、自己表現力及び学習意欲を総合的に評価します。

## 入学者選抜と、学力の3要素との関係

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜(前期日程)	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(国語、外国語)	☆ 調査書
総合型選抜(大学入学共通テストを課す)	○	大学入学共通テスト	◎	面接(口述試験を含む)、自己推薦書、調査書	○ 面接(口述試験を含む)、調査書、自己推薦書
国際バカロレア選抜	○	成績評価証明書、評価書	○	自己推薦書、評価書	○ 自己推薦書、評価書
私費外国人留学生選抜	○	日本留学試験	◎	面接(口述試験を含む)、作文	○ 面接(口述試験を含む)

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

## 入学前に学習しておくことが期待される内容

文学部で幅広い人文学の知識を学習するために必要な基礎学力を身に付けておいてください。大学受験の科目として選択しない科目についても、可能な限りその基礎を習得していることを期待します。